

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	気球太陽望遠鏡による精密偏光観測：恒星大気における磁気エネルギー変換の現場に迫る
研究代表者	勝川 行雄 (国立天文台・太陽観測科学プロジェクト・准教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、太陽の光球（約6000度）とコロナ（100万度を超える）の中間に位置する「彩層」と呼ばれる領域の磁気エネルギー輸送と散逸のプロセスを、大気球太陽望遠鏡 SUNRISE を用いて精密な偏向分光観測を行うことで彩層内の3次元磁場・速度場情報を得ると共に、電磁流体磁気シミュレーションによるモデリングとの比較によって理解しようとするものである。</p> <p>SUNRISE はドイツ・スペイン・アメリカとの共同研究で開発が進められており、本研究で偏向分光装置 SCIP の開発が行われる予定である。海外の共同研究グループの予算獲得も含めて準備は着々と進められており、計画どおりに研究が進むことが期待でき、また、天体プラズマへの応用など波及効果も大きいと考える。</p>